

**●漁況情報**

- 8月1日、神奈川県のイセエビ漁が解禁となりました。城ヶ島漁協では、漁業者1人あたり最大約20kgの水揚げがあり、漁業者はみな今後の漁模様に期待していました。
- 長井から鎌倉にかけての各浜でも、刺網によるイセエビ漁が始まりました。こちらは漁業者1人あたり5kgから10kg前後の漁模様だそうです。イセエビは、関東ではかつて鎌倉沖で獲れたものが有名だったことから、鎌倉漁協では「鎌倉海老」と呼んでいます。
- 8月上旬、長井町漁協のキハダやカツオを対象とした遊漁船には、大物を求め連日多くの釣り人が訪れています。コマセ釣りやルアーで50kg前後のキハダを釣り上げた人もいます。

**●浜の話題**

- 8月5日、鎌倉の由比ガ浜海水浴場に体長10.5mもあるクジラが漂着しました。これは、現生動物では地球上で最大といわれるシロナガスクジラで、この大きさでもまだ赤ちゃんだそうです。また、日本における本種の漂着例は極めて珍しいとのこと。
- 8月5日、小田原漁港で第28回小田原みなとまつりが開催されました。定置網の網締め見学や地魚の直販などが催され、多くの来場者にとって、小田原の漁業や魚を身近に感じる良い機会となりました。主催者側の発表では当日の来場者は5万人とのこと、みなとまつりは毎年大変好評な催しとなっています。
- 8月6日、大磯港みなとまちづくり協議会は、大磯港で「いそっこ海の教室 2018」を開催しました。当日は14組32名の親子が参加し、大磯の漁業について説明を受けたあと、沖に出てマダイの種苗放流を行いました。また、地元の定置網で獲れたサバを使った魚のさばき方教室等も開かれ、参加者は大磯の海と魚を満喫していました。



魚のさばき方教室の様子

- 8月7日、横浜市漁協柴支所において、平成29年度ホタテガイ養殖試験結果の検討会が開催されました。同支所では、例年11月から4月頃までホタテガイ養殖試験に取り組んでおり、今回の結果を検討し、次回導入する種苗の育成方法や質等について議論を行いました。
- 8月7日、横須賀市東部漁協所属の漁業者が育成しているワカメ種苗の生育状況を、担当普及指導員が顕微鏡で検査しました。種系には配偶体（ワカメの芽のようなもの）が確認され、水温が上がらないように施設の換気を良くする等、普及指導員から指導しました。

- 8月14日、県内の一本釣り漁業者で構成される神奈川県小釣り漁業連絡協議会の総会が、県水産技術センターで開催されました。会議には会員等21名が出席し、平成29年度事業・決算報告や平成30年度事業計画・予算の承認のほか役員改選も行われ、新たに三浦市松輪地区の鈴木正規さん（義一丸）が会長となりました。総会終了後は県水産技術センター職員から、平成30年度の海況とさば類資源の予測について話があり、出席した漁業者は今後の黒潮の動向等について活発に質問していました。



協議会総会の様子



さば類資源予測の説明を聞く出席者

- 8月15日、城ヶ島漁協は三崎・城ヶ島花火大会にあわせ、同漁協直売所前において「いせえび釣りまつり」を開催しました。このイベントは、一般の方にイセスに入ったイセエビを釣ってもらうことで、城ヶ島産のイセエビをPRするというものです。参加者は皆、楽しそうにイセエビを釣り上げ、炭火焼きや刺身になったイセエビに舌鼓を打っていました。



イセエビ釣りを楽しむ参加者



釣り上げたイセエビは炭火焼きに

## ●お知らせ

- 8月15日、県水産技術センターは、平成30年8月から12月までの長期漁海況予報を発行しました。これは7月に（国研）水産研究・教育機構中央水産研究所が開催した会議での検討結果をもとに本県海域の漁海況予報をまとめたもので、概要は以下のとおりです。

予報概要（詳細は下記URL参照）

海況：黒潮はA型で推移し、沿岸水温は平年並から高めとなる。さば類（マサバ）：来遊量は前年を上回る。マイワシ：来遊量は前年を下回る。カタクチイワシ：来遊量は低調な前年並。マアジ：来遊量は前年を下回る。

当センターでは年2回予報を発行していますので、これからの操業の参考にしてください。

長期漁海況予報URL：

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/cnt/f430693/p1101542.html>